

広告

企画・制作：読売新聞社ビジネス局

人類が目指すべき道しるべに

## 人類の祖型 そして未来としての ASO



姜 尚中氏  
熊本県立劇場館長

「祖型」という言葉は、ユング研究で知られた元文化庁長官、河合隼雄さんから教わりました。ユングは、人間は個体として生まれますが、DNAのようなもの(祖型)が無意識にビルト

インされていると唱えています。阿蘇の景観がどうして人々の営みによって1000年以上続いてきたのか?それは、阿蘇には神話や伝説、祭祀がある。非科学的と考えられるそれらは人間の祈りの集積ではないか。エノミミとエコロジとミソロジー(神話)が渾然一体となっているのは阿蘇しかない。世界が混沌とした状況にある今、我々はどこに向かっているのか。その道しるべが阿蘇の人々と自然との共生であり、目指すべき未来があると感じています。

阿蘇は自然と人の共同作品

## 阿蘇が世界の人々に 語りかけるもの



稲葉 信子氏  
筑波大学名誉教授

世界遺産条約には、文化遺産の種類として、歴史的な建造物や都市に加えて「自然と人の共同作品」というのがあります。文化的景観です。阿蘇では世界で有数の規模を誇る火山カルデラの自然に手を加えて、人が住み、農業に利用する素晴らしい緑の大地に変えてきました。まさに自然と人の共同作品です。阿蘇の人が育ててきた壮大で美しいカルデラの農業景観、そこに世界遺産としての顕著で

普遍的な価値があると考えています。阿蘇ではカルデラの特別な地形を工夫して、上から草地、森林、耕作地として利用してきました。特に草地は重要な要素です。草地の利用は日本では激減しました。世界遺産では、顕著で普遍的な価値の証明に加えて保全システムの確立も求められます。文化的景観の保全はSDGs(持続可能な開発目標)に貢献します。地元の方々の協力で阿蘇をSDGsのモデルにしていくことも世界遺産では求められています。

## 開会挨拶



木村 敬

熊本県知事  
阿蘇世界文化遺産登録推進協議会会長

阿蘇には1000年以上にわたって維持されてきた草原、森林、集落、田畑が巨大なカルデラ全域に明瞭な形で残されています。世界的にまれで壮大な美しい景観です。草原は、野焼き、放牧、採草という人々の営みと努力によって維持されてきました。それらを守り続け、世界に誇る文化的景観を後世に伝えるためには早期の世界遺産暫定一覧表入りが必要です。阿蘇郡市7市町村の皆様方と一丸となって全力で取り組んでまいります。

〔総司会〕

日本テレビ アナウンサー

後呂 有紗



主催 阿蘇世界文化遺産登録推進協議会  
(熊本県・阿蘇市・南小国町・小国町・産山村・高森町・西原村・南阿蘇村)

阿蘇世界文化遺産  
登録推進  
東京シンポジウム



©2010 熊本県くまモン

# 世界文化遺産登録目指し、 阿蘇の文化的景観を世界に

世界最大級のカルデラ、熊本県・阿蘇の世界文化遺産登録を推進する東京シンポジウムが11月11日、都内のホテルで開かれた。県と阿蘇郡市7市町村でつくる阿蘇世界文化遺産登録推進協議会の主催。参加した木村敬・熊本県知事は国が記載する世界遺産暫定一覧表入りに向けた課題について熱い議論を交わした。会場には九州経済界関係者を含め約200人が詰めかけ、オンラインで同時配信(約100人参加)も行われた。

## 〈パネルディスカッション〉「阿蘇」は世界文化遺産となり、どう地域に世界に貢献していくか

稲葉氏と坂本正・阿蘇草原再生千年委員会委員長、鈴木地平・文化庁文化財調査官、木村知事がパネリスト、高橋佳孝・全国草原再生ネットワーク代表理事がコーディネーターを務めた。



(前列左から)熊本県議会・高木健次副議長、同・山口裕議長、本田顕子参議院議員、文化庁・鈴木地平文化財調査官、全国草原再生ネットワーク・高橋佳孝代表理事、筑波大学・稲葉信子名誉教授、熊本県立劇場・姜尚中館長、熊本県・木村敬知事、阿蘇草原再生千年委員会・坂本正委員長、阿蘇世界文化遺産登録推進九州会議・松尾新吾会長、同・石原進会長代理、同・河村邦比呂委員、公益財団法人阿蘇グリーンストック・山内康二副理事長(後列左から)熊本県議会・杉本ミカ議員、同・斎藤陽子議員、阿蘇市・和田一彦副市長、南小国町・高橋周二町長、小国町・源誠次町長、産山村・市原正文村長、高森町・草村大成町長、西原村・吉井誠村長、南阿蘇村・吉良清一村長、熊本県議会・岩本浩治議員、同・立山大二朗議員、くまモン



全国草原再生  
ネットワーク代表理事  
高橋 佳孝氏

コーディネーター



文化庁文化財調査官  
鈴木 地平氏



阿蘇草原再生千年  
委員会委員長  
坂本 正氏

パネリスト

熊本県知事  
木村 敬  
筑波大学 名誉教授  
稲葉 信子氏

阿蘇は奇跡の文化空間  
―坂本氏

高橋 阿蘇の特徴は? 鈴木 人が自然の中で暮らしてきた営みや特徴的な土地利用を将来に残すべき遺産だとして、1990年代に文化的景観が世界遺産の対象になりました。日本で世界文化遺産に登録されたものの一つが「紀伊山地の霊場と参詣道」。雄大な自然があつてそこに人が入り込んだイメージ。しかし、フィリピン

の棚田や阿蘇は人間が絶えず働きかけて1000年以上かけてつくられてきた極めて人工的な景観です。稲葉 少し前に訪ねたフィリピンの棚田で、若い人はマニラに出て行って帰ってこないと言いました。幸いに役所の方々が頑張っていたに上る上、若い人たちのボランティアグループがありました。文化的景観の解答は一つではなく、阿蘇というモデルを世界に向けて発信することが大事です。坂本 阿蘇世界文化遺産登録推進九州会議には九州経済連合会の名譽会長、JR九州の特別顧問といった方々が加入しています。なぜかと言うと、阿蘇は福岡の水がめなのです。阿蘇は地震があり、火山灰が降るなど生活は大変ですが、カルデラに人が住み、古いものを近代的なシステムに変え、草地や環境、水を守ることを一体化してやってきました。奇跡の文化空間です。

文化的景観維持のために  
新たな枠組みを―木村知事

高橋 ソーラーパネルなど文化的景観が壊されるような施設に県はどう臨まれているか。木村 文化的景観維持のための新たな枠組みがでないか検討中です。まず都市圏の方々が阿蘇の歴史と恵みを知り、積極的に関わっていただくため、熊本市も含めた仕組みにしたいです。ソーラーパネルは市町村と連携してガイドラインを作つて、草地には原則設置しないという方向性を決めていきます。

稲葉 風力発電とソーラーシステムは再生可能エネルギーのうちです。簡単に駄目だとは言つてしまふわけにもいかない。共存するためにはどうしたらいいのか議論になつており、答えは一つではありません。ケースバイケースの対処をどう地元が考えるのか

が問われています。鈴木 大事なことは、稲葉さんが講演でおっしゃつた「コミュニティ」だと思ひます。価値と保全は両輪です。私はコミュニティを加えた。世界遺産になつた地域の皆さんは世界遺産制度をどう使っていくのかが問われます。木村 現実問題として阿蘇の文化的景観維持は厳しい状況にあります。少子化で人口が減り、域外流出も止まりません。そうした中で、今の野焼きも含めて阿蘇の草地を維持してきたコミュニティが崩壊寸前と言つても過言ではない中で、熊本市の人たち、また日本中の人たちに阿蘇を知つてもらつて、悠久の歴史が維持される仕掛けをつくつていきたいです。

防災と過疎化対策を世界に

―鈴木氏

鈴木 世界が日本に求め、果たしてきた役割は「無形」の「伝統」や「営み」などです。さらに、「防災」や「過疎化」で日本がどういった答えを出すのか注目されています。いずれも人類共通の課題であり、過疎化は先進国がこれから突入します。これらの課題に日本と阿蘇はどう解答するのか、これはどこも答えを求めていません。木村 新しい価値を未来に向けて提案していかなければいけない。今日は未来にともに取り組んでいくコミュニティができたことに感謝申し上げます。応援よろしくお願いします。



シンポジウムの様子を  
アーカイブでご覧になれます